

再評価結果（平成30年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局 国道・防災課
担当課長名：村山 一弥

事業名 一般国道21号 <small>せきがはら</small> 関ヶ原バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 中部地方整備局	
起終点 自：岐阜県不破郡垂井町日守 至：岐阜県不破郡関ヶ原町今須	延長 10.4 km		
事業概要 一般国道21号関ヶ原バイパスは、岐阜県不破郡垂井町日守から不破郡関ヶ原町今須に至る延長10.4 kmのバイパスです。 国道21号現道には、主要渋滞箇所や事故危険区間、急勾配区間の課題があり、本事業は、課題解決のためにバイパスを整備することで、交通渋滞の緩和、交通安全の確保、災害に強い道路機能の確保、観光産業の活性化等の効果を見込んでいます。			
S47年度事業化	S54年度・S58年度 都市計画決定	S55年度用地着手	S58年度工事着手
全体事業費 440億円		事業進捗率 58%	供用済延長 6.0 km
計画交通量 15,100 台/日			
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.1 (残事業) 1.4	総費用 (残事業)/(事業全体) 166 / 811 億円 (事業費：139/762億円) (維持管理費：27/49億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 228 / 882 億円 (走行時間短縮便益：209/766億円) (走行経費減少便益：16/110億円) (交通事故減少便益：3.6/5.8億円)
基 準 年 平成29年			
感度分析の結果 (事業全体) 交通量：B/C=0.98~1.2(交通量 ±10%) 事業費：B/C=1.1~1.1(事業費 ±10%) 事業期間：B/C=1.05~1.1(事業期間±20%)			
(残事業) 交通量：B/C=1.2~1.5(交通量 ±10%) 事業費：B/C=1.3~1.5(事業費 ±10%) 事業期間：B/C=1.3~1.4(事業期間±20%)			
事業の効果等 ①円滑なモビリティの確保 ・現道等の年間渋滞損失時間の削減が見込まれる。 ②個性ある地域の形成 ・主要観光地（伊吹山ドライブウェイ）へのアクセス向上が期待される。 ③災害への備え ・第一次緊急輸送路として位置づけられている。 ・防災対策必要箇所の回避が可能となる。 ・冬期交通障害区間を解消する。 ④地球環境の保全 ・CO2排出量の削減が見込まれる。 ⑤生活環境の改善・保全 ・NO2排出量の削減が見込まれる。 ・SPM排出量の削減が見込まれる。 ・騒音レベルの夜間要請限度超過の改善が期待される。			
関係する地方公共団体等の意見 県知事の意見： 対応方針（原案）のとおり、事業の継続について異存ありません。 なお、今後の事業の実施にあたっては、下記の内容についてご配慮願います。 ・事業費については、最新技術の活用も含めて、徹底したコスト削減をお願いします。			
事業評価監視委員会の意見 ・「事業継続」することは「妥当」である			
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・現道では慢性的な渋滞がみられ、関ヶ原西町交差点が主要渋滞箇所を選定されている。 ・現道の交通事故の約7割は車両相互の正面衝突や追突事故が占めている。 ・急勾配区間が存在し降雪や異常気象時の走行性・安全性に支障がある。 ・関ヶ原町が「関ヶ原古戦場ランドデザイン」を策定し、観光活性化に取り組んでいる。			

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・事業進捗率は58%、用地進捗率は85%（平成28年度末）
- ・不破郡垂井町日守～国道365号（延長6.0km）は、暫定2車線で開通済み。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・玉～今須間の都市計画決定に向けた関係機関協議（鉄道交差協議、猛禽類等貴重動植物調査・影響把握等）を引き続き進め、周辺の交通状況等を踏まえ事業の着手を検討する。

施設の構造や工法の変更等

- ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進していく。

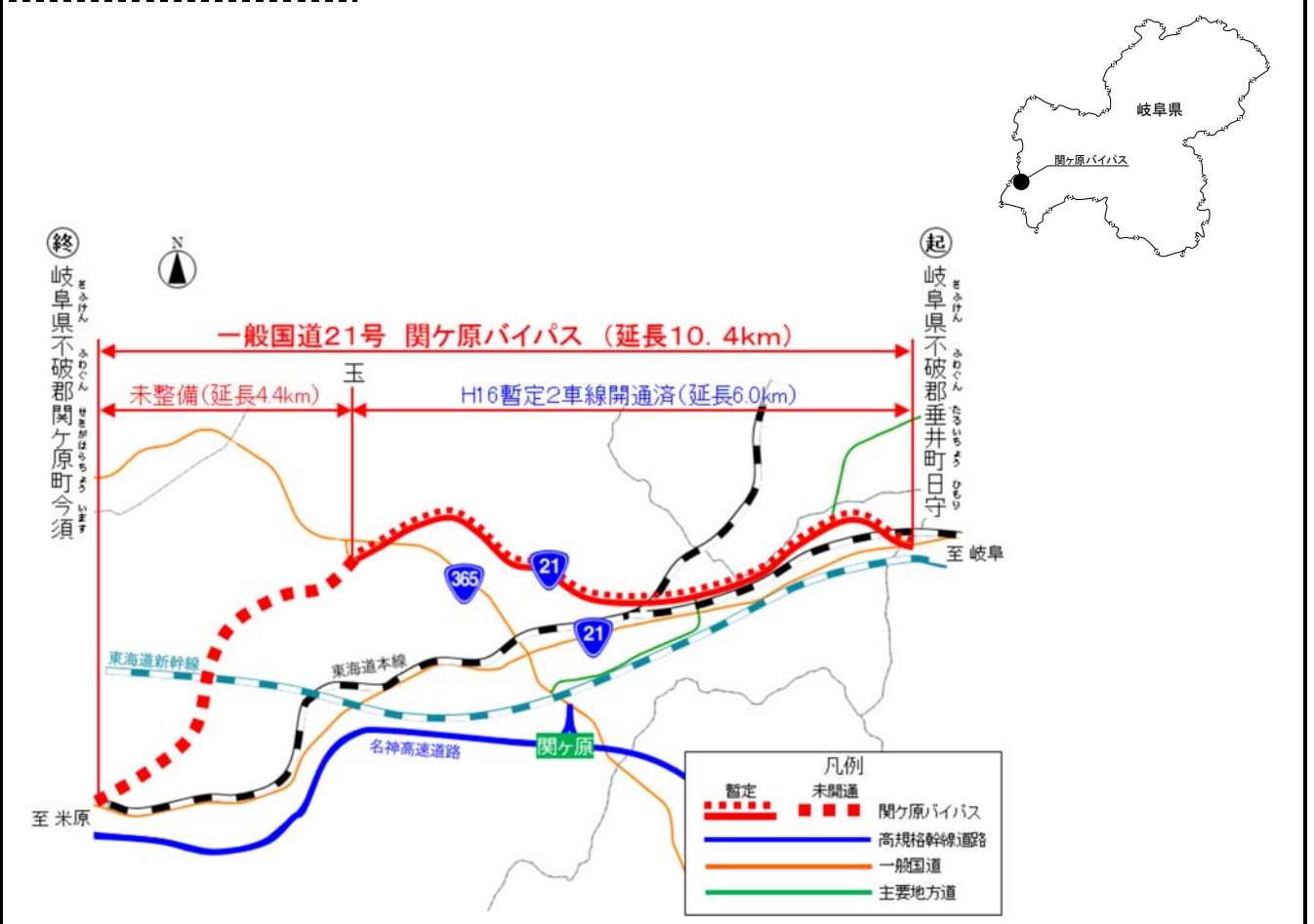
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。